

# 第十四章

## 自助力アップの設備改善

—工夫でまだまだ出来るという自信へ—

(平成元年)

52 53 54 ~ 58 59 60 61 62 63 64 ~ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 ~

- |        |                               |                  |  |
|--------|-------------------------------|------------------|--|
| •春日園開園 | •たんぼぼ作業所管理開始<br>•天皇陛下より御下賜金拝受 | •第2春日園開園         | •生活ホーム「とびた」設立                              |
|        |                               | •生活ホーム「KASUGA」設立 | •生活ホーム「1・2号館」設立                            |
|        |                               | •生活支援サービスのぞみ設立   | •つくし/たけのこ作業所運営<br>•障害者自立支援法へ移行<br>•のぞみ移転統合 |

生活介護という事業を実施したことは、ある意味利用者の今までの自信というものを喪失させたのかも・。という申し訳ない気分させせる。しかし一方ではそれにより機能訓練を行ったり時間にゆとりが出来たりと、平均年齢56歳になった今だから考えなくてはならないことが出来るようになったという思いもあり、まだ迷っていてもいる。

しかしながら、利用者は確実に現在の生活様式に馴染みつつある。ならば今を維持しよう。特に出来ないという自信喪失ではなく、どうしたら継続して出来ていけるのだろうか？ということ設備的に考えて行くべきと思うのである。

### ①トイレ改修から

通常のトイレは便器に対し180度体の向きを変えて便座に座る。私達には何でもないことだが、車椅子利用者にとっては足が動かず大変な動作になる場合がある。我が家のトイレは扉なので90度の回転ですむが結構楽なのだ。ならば進入に際し便座が後ろ向きに設置してあれば回転せず横にずれば便座に座れるはず。

トイレのスペースの問題もあるが、この様に改修したことにより使い勝手が良くなった利用者も多くいるようだ。要は型にはまったトイレではなく幾つかの変形トイレを用意し、機能に応じたトイレを使い分けてくれるといいと思うのである。

### ②機能訓練から

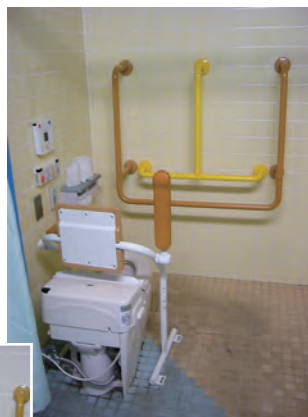
現在看護師を中心に機能訓練を行っている。嘗ての皆光園への通園訓練に見るような息抜きの場オンリーではまずい、そこには改善なり維持する部位等の明確化があつて、利用者本人の

理解と意欲がなければいけない。機能訓練の一番の効果は自ら伸ばそう、鍛えようという動作によって生まれる。

### ③時代や機能に即応した設備に

かつて男子トイレでは床から立ちあがっていた小便器を春日園は使用していた。それらを改修する折、床から立ちあがっていない、吊つてあるような便器にした。

それは高速道などでの小便器が吊つてあるタイプで、利用者が外出した時に少しでも使い慣れていたほうが良いと思つたから、あれから20年以上たち年も重ね、当時良いと思つたものがだんだん使いづらくなつてしまふ。はたして便器は排泄する場所だけなのだろうかと思つてしまふ。



▶男子トイレ



◀女子トイレ